

医薬品インタビューフォーム
日本病院薬剤師会のI F記載要領2008に準拠して作成

神経・筋機能賦活剤

ナイロジン®注

NYROZIN INJECTION

剤形	注射剤(水性注射液)
製剤の規制区分	処方箋医薬品 (注意 - 医師等の処方箋により使用すること)
規格・含量	1管(10mL)中に下記の成分・分量を含有する。 チアミンジスルフィド……………50mg ピリドキシリン塩酸塩……………100mg ヒドロキソコバラミン酢酸塩 (ヒドロキソコバラミンとして) ……1mg
一般名	和名:チアミンジスルフィド 洋名:Thiamine Disulfide 和名:ピリドキシリン塩酸塩 洋名:Pyridoxine Hydrochloride 和名:ヒドロキソコバラミン酢酸塩 洋名:Hydroxocobalamin Acetate
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日 : 1989年12月26日 薬価基準収載年月日 : 1990年7月13日 発売年月日 : 1990年7月13日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元:コーアイセイ株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	コーアイセイ株式会社 学術部 TEL:023-622-7755 FAX:023-624-4717 医療関係者向けホームページ http://www.isei-pharm.co.jp/

本I Fは2015年7月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

I F利用の手引きの概要－日本病院薬剤師会－

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師、薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付け更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、I Fと略す)の位置付け並びにI F記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてI F記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会において新たなI F記載要領が策定された。

2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたI Fは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[I Fの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②I F記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[I Fの作成]

- ①I Fは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②I Fに記載する項目及び配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのI Fの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「I F記載要領2008」により作成されたI Fは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[I F の発行]

- ①「医薬品インタビューフォーム記載要領2008（以下、「 I F 記載要領2008と略す）は、平成21年4月以降に承認された新医薬品から適用となる。」
- ②上記以外の医薬品については、「 I F 記載要領2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

3. I F の利用にあたって

「医薬品インタビューフォーム記載要領2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、 P D F ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での I T 環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の I F については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、 I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、 I F の利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、 I F が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、 I F の利用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

I F を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。

I F は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、 I F があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後のインタビューフォームでの公開等を踏まえて、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報活用する必要がある。

(2008年9月)

目 次

I. 概要に関する項目	
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
II. 名称に関する項目	
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）	2
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	3
7. CAS登録番号	3
III. 有効成分に関する項目	
1. 物理化学の性質	4
2. 有効成分の各種条件下における安定性	5
3. 有効成分の確認試験法	5
4. 有効成分の定量法	5
IV. 製剤に関する項目	
1. 剤形	6
2. 製剤の組成	6
3. 注射剤の調製法	6
4. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	6
5. 製剤の各種条件下における安定性	7
6. 溶解後の安定性	7
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	7
8. 生物学的試験法	7
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	7
10. 製剤中の有効成分の定量法	7
11. 力価	7
12. 混入する可能性のある夾雑物	7
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	7
14. その他	7
V. 治療に関する項目	
1. 効能又は効果	8
2. 用法及び用量	8
3. 臨床成績	8
VI. 薬効薬理に関する項目	
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9
2. 薬理作用	9
VII. 薬物動態に関する項目	
1. 血中濃度の推移・測定法	10
2. 薬物速度論的パラメータ	10
3. 吸収	10
4. 分布	11
5. 代謝	11
6. 排泄	11
7. 透析等による除去率	11

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 警告内容とその理由	12
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	12
3. 効能又は効果に関する使用上の注意とその理由	12
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	12
5. 慎重投与内容とその理由	12
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	12
7. 相互作用	12
8. 副作用	13
9. 高齢者への投与	13
10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	13
11. 小児等への投与	13
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	13
13. 過量投与	14
14. 適用上の注意	14
15. その他の注意	14
16. その他	14
IX. 非臨床試験に関する項目	
1. 薬理試験	15
2. 毒性試験	15
X. 管理的事項に関する項目	
1. 規制区分	16
2. 有効期間又は使用期限	16
3. 貯法・保存条件	16
4. 薬剤取扱い上の注意点	16
5. 承認条件等	16
6. 包装	16
7. 容器の材質	16
8. 同一成分・同効薬	16
9. 国際誕生年月日	16
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	16
11. 薬価基準収載年月日	16
12. 効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	17
13. 再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	17
14. 再審査期間	17
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	17
16. 各種コード	17
17. 保険給付上の注意	17
X I. 文献	
1. 引用文献	18
2. その他の参考文献	18
X II. 参考資料	
1. 主な外国での発売状況	18
2. 海外における臨床支援情報	18
X III. 備考	
その他の関連資料	18

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は神経・筋機能賦活剤の混合ビタミン剤で、1989年12月26日に製造販売承認を取得し、1990年7月13日付で薬価基準追補収載され発売に至った。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は1管(10mL)中にチアミンジスルフィド 50mg、ピリドキシン塩酸塩 100mg 及びヒドロキソコバラミン酢酸塩(ヒドロキソコバラミンとして) 1mg を含有する淡紅色澄明の水溶性注射液である。
- (2) 本剤はチアミンジスルフィド(ビタミンB₁)を中心にピリドキシン塩酸塩(ビタミンB₆)及びヒドロキソコバラミン酢酸塩(ビタミンB₁₂)を合理的に配合した製剤で、各成分の総合作用により、神経痛、筋肉痛・関節痛、末梢神経炎・末梢神経麻痺等各種の神経・筋疾患に使用される。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ナイロジン注

(2) 洋名

NYROZIN INJECTION

(3) 名称の由来

特になし

2. 一般名

(1) 和名(命名法)

チアミンジスルフィド(JAN)

ピリドキシリン塩酸塩(JAN)

ヒドロキソコバラミン酢酸塩(JAN)

(2) 洋名(命名法)

Thiamine Disulfide(JAN)

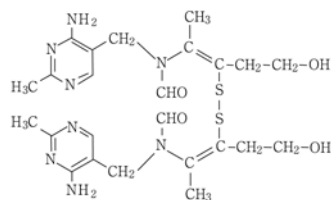
Pyridoxine Hydrochloride(JAN)

Hydroxocobalamin Acetate(JAN)

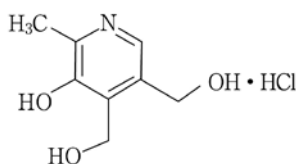
(3) ステム

該当しない

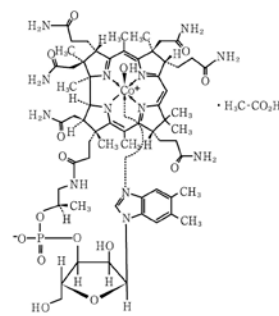
3. 構造式又は示性式



チアミンジスルフィド



ピリドキシリン塩酸塩



ヒドロキソコバラミン酢酸塩

4. 分子式及び分子量

チアミンジスルフィド

分子式: $C_{24}H_{34}N_8O_4S_2$

分子量: 562.71

ピリドキシリン塩酸塩

分子式: $C_8H_{11}NO_3 \cdot HCl$

分子量: 205.64

ヒドロキソコバラミン酢酸塩

分子式: $C_{62}H_{89}CoN_{13}O_{15}P \cdot C_2H_4O_2$

分子量: 1406.41

5. 化学名(命名法)

チアミンジスルフィド: *N,N*-{Dithiobis[2-(2-hydroxyethyl)-1-methyl-2,1-ethenediyl]}bis{*N*-(4-amino-2-methyl-5-pyrimidinyl)methyl}formamide

ピリドキシリン塩酸塩: 4,5-Bis(hydroxymethyl)-2-methylpyridin-3-ol monohydrochloride

ヒドロキソコバラミン酢酸塩: *Co* α -[α -(5,6-Dimethyl-1*H*benzimidazol-1-yl)]-*Co* β -hydroxocobamide monoacetate

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

チアミンジスルフィド : 略号 TDS

ピリドキシン塩酸塩 : なし

ヒドロキソコバラミン酢酸塩 : なし

7. CAS登録番号

チアミンジスルフィド : 67-16-3

ピリドキシン塩酸塩 : 58-56-0

ヒドロキソコバラミン酢酸塩 : 13422-51-0 (ヒドロキソコバラミン)

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

チアミンジスルフィド：

白色～淡黄白色の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

ピリドキシン塩酸塩：

白色～微黄色の結晶性の粉末である。

ヒドロキソコバラミン酢酸塩：

暗赤色の結晶又は粉末で、においはない。

(2) 溶解性

チアミンジスルフィド：

エタノール(95)に溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。希塩酸又は希硝酸に溶ける。

ピリドキシン塩酸塩：

水に溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けにくく、無水酢酸、酢酸(100)にほとんど溶けない。

ヒドロキソコバラミン酢酸塩：

水に溶けやすく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

チアミンジスルフィド：

該当資料なし

ピリドキシン塩酸塩：

該当資料なし

ヒドロキソコバラミン酢酸塩：

吸湿性である。相対湿度約 40, 50, 60 及び 80%における各吸湿平衡状態で乾燥減

量を測定すると、それぞれ約 5, 15, 24, 26%を示す。

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

融点（分解点）

チアミンジスルフィド：177℃（無水物）

ピリドキシン塩酸塩：約 206℃（分解）

ヒドロキソコバラミン酢酸塩：該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

チアミンジスルフィド：

飽和水溶液はほぼ中性である。

ピリドキシン塩酸塩：

光によって徐々に変化する。本品 1.0 g を水 50mL に溶かした液の pH は 2.5~3.5 である。

ヒドロキシコバラミン酢酸塩：

[乾燥減量]12%以下(50mg、減圧・0.67kPa 以下、酸化リン(V)、100°C、6 時間)

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

チアミンジスルフィド：（日本薬局方外医薬品規格 2002 による）

(1) チオクロム反応

(2) 酢酸鉛試液及び水酸化ナトリウム溶液による沈殿反応

(3) 0.1mol/L 塩酸試液及びピクリン酸試液による沈殿反応

ピリドキシン塩酸塩：（第十六改正日本薬局方解説書による）

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル測定法

(3) 塩化物の定性反応

ヒドロキシコバラミン酢酸塩：（第十六改正日本薬局方解説書による）

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) Co の定性反応

(3) 酢酸の定性反応

4. 有効成分の定量法

チアミンジスルフィド：（日本薬局方外医薬品規格 2002 による）

滴定終点検出法（指示薬：塩化メチルロザニリン試薬）

ピリドキシン塩酸塩：（第十六改正日本薬局方解説書による）

電位差滴定法

ヒドロキシコバラミン酢酸塩：（第十六改正日本薬局方解説書による）

紫外可視吸光度測定法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

- 1) 剤形の区別
水性注射液
- 2) 性状
淡紅色澄明の水性注射液である。

(2) 溶液及び溶解時の pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等

pH : 3.0~5.0
浸透圧比 : 約 1 (生理食塩液に対する比)

(3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類

窒素

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

1 管 (10mL) 中 下記の成分・分量を含有する。

チアミンジスルフィド	50mg
ピリドキシン塩酸塩	100mg
ヒドロキシコバラミン酢酸塩 (ヒドロキシコバラミンとして)	1mg

(2) 添加物

日局 D-マンニトール (安定化剤・等張化剤)	240mg
日局 塩化ナトリウム (等張化剤)	10mg
pH 調整剤	適量

(3) 電解質の濃度

該当しない

(4) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

(5) その他

該当しない

3. 注射剤の調製法

該当しない

4. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性

最終包装製品を用いた長期保存試験 [しゃ光保存・25℃以下保存、1年6ヵ月] の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ナイロジン注は 25℃以下のしゃ光保存で1年6ヵ月間安定であることが確認されている。¹⁾

6. 溶解後の安定性

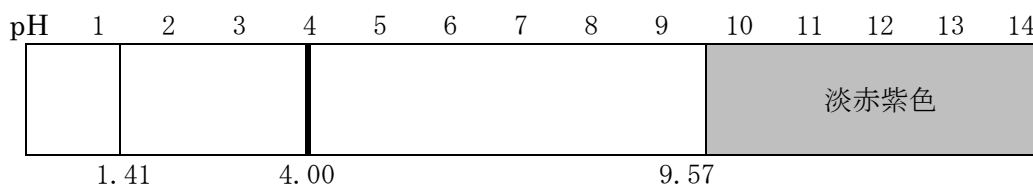
該当しない

7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）

ナイロジン注の pH 変動スケール

pH4.0 [規格 3.0~5.0]

	添加量	pH	変動スケール
0.1mol/L HCL	10mL	1.41	2.59 (変化なし)
0.1mol/L NaOH	10mL	9.57	5.57 (淡赤紫色)



8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法（製造販売承認書による）

- (1) チオクローム反応（チアミンジスルフィド）
- (2) 呈色反応（ピリドキシリン塩酸塩）
- (3) 呈色反応（ヒドロキシコバラミン）

10. 製剤中の有効成分の定量法（製造販売承認書による）

チアミンジスルフィド：
紫外可視吸光度測定法
ピリドキシリン塩酸塩：
紫外可視吸光度測定法
ヒドロキシコバラミン酢酸塩（ヒドロキシコバラミン）：
紫外可視吸光度測定法

11. 力価

本剤は力価表示に該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当しない

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

- 本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦など）
 - 下記疾患のうち、本剤に含まれるビタミン類の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
 - 神経痛
 - 筋肉痛・関節痛
 - 末梢神経炎・末梢神経麻痺
- 効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

2. 用法及び用量

通常成人 1 日 1 回 10mL を緩徐に静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ（2009年4月以降承認品目）

該当しない

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・ 製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

チアミンジスルフィド：

チアミン塩化物塩酸塩、フルスルチアミン、オクトチアミン、ベンフォチアミン

ピリドキシン塩酸塩：

ピリドキサーリン酸エステル水和物等

ヒドロキシコバラミン酢酸塩：

シアノコバラミン、メコバラミン、コバマミド

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

チアミンジスルフィド：

チアミンジスルフィドは肝のシステイン、グルタチオンなどにより還元されて thiamine thiol となってビタミンB₁作用を発揮する。

ピリドキシン塩酸塩：

生体内で主としてリン酸ピリドキサル（ビタミンB₆の補酵素型）となって作用する。アミノ酸・たん白代謝酵素群の補酵素として各種アミノ酸・たん白の分解・生合成に重要な役割を果たす。また、脂肪代謝にも関与し、特に不飽和脂肪酸の生体内利用の際に必要とされる。²⁾

ヒドロキシコバラミン酢酸塩：

多くの代謝系に関与し、正常な発育、造血、神経組織のミエリン鞘形成などに重要な役割を果たしている。DNA 合成過程に必要な葉酸を活性化することにより、間接的に DNA 合成に関与するほか、メチルマロニル CoA からサクシニル CoA への転換反応に関与することによって造血機能を促進する。また、還元型 SH 基の保護、メチオニン合成時の役割を介してたん白合成にも影響を及ぼし、髄鞘の形成促進作用、グリア細胞での核酸・たん白代謝を改善する。眼に対しては、酸素消費量を増し、ATP 産生を増大させる。調節性眼精疲労を改善する。²⁾

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「VIII. 7. 相互作用」の項参照

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. 透析等による除去率

腹膜透析：該当資料なし

血液透析：該当資料なし

直接血液灌流：該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤及びチアミンジスルフィドに対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

7. 相互作用

（1）併用禁忌とその理由

該当しない

（2）併用注意とその理由

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
レボドパ	レボドパの有効性を減じることがある。	ピリドキシン塩酸塩がレボドパの脱炭酸化を促進し、脳内作用部位への到達量を減少させる。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

ショック、アナフィラキシー様症状（いずれも頻度不明）：ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、全身皮膚潮紅、そう痒感、血圧低下、胸内苦悶、呼吸困難、痙攣等があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

分類	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、そう痒感
消化器	悪心・嘔吐
投与部位	局所疼痛

注1) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

項目別副作用発現頻度：該当資料なし

臨床検査値異常一覧：該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- ・本剤及びチアミンジスルフィドに対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。（「禁忌」の項参照）
- ・ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、全身皮膚潮紅、そう痒感、血圧低下、胸内苦悶、呼吸困難、痙攣等があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。（「重大な副作用」の項参照）
- ・発疹・そう痒感等過敏症の症状があらわれた場合には、投与を中止すること。（「その他の副作用」の項参照）

9. 高齢者への投与

該当資料なし

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

(2) 授乳婦に投与する場合には授乳を中止させること。〔授乳中の投与に関する安全性は確立していない。〕

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

(1) 調製時

本剤は、アミノ酸製剤と混合した場合、ビタミンの分解が促進されることがあるので注意すること。

(2) 注射速度

静脈内投与により血管痛を起こすことがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

(3) アンプルカット時

アンプルカット時のガラス片混入の少ないクリーンカットアンプルを使用しているが、さらに安全に使用するため、エタノール消毒綿等で清拭しカットすること。

15. その他の注意

該当しない

16. その他

該当しない

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照)

該当資料なし

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：ナイロジン注
処方箋医薬品
(注意 - 医師等の処方箋により使用すること)
有効成分：チアミンジスルフィド 該当しない
ピリドキシン塩酸塩 該当しない
ヒドロキシコバラミン酢酸塩 該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：1年6ヵ月（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

しゃ光保存・25℃以下保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

該当資料なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

10mL 50管

7. 容器の材質

褐色のガラス（10mL アンプル）

8. 同一成分・同効薬

(1) 同一成分薬

ネオラミン・スリービー液（静注用）〔日本化薬〕

(2) 同効薬

チアミン塩化物塩酸塩・B₆・B₁₂配合剤、チアミンモノホスフェイトジスルフィド・B₆・B₁₂配合剤、フルスルチアミン・B₆・B₁₂配合剤等

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認月日及び承認番号

製造販売承認年月日：1989年12月26日

承認番号：(01AM)第0916号

11. 薬価基準収載年月日

1990年7月13日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容
該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容
該当しない

14. 再審査期間
該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報
本剤は投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	厚生労働省薬価 基準収載コード	レセプト 電算コード	HOT番号
ナイロジン注	3179504A1094	643180047	107236501

17. 保険給付上の注意
本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) コーアイセイ株式会社：社内資料（安定性試験）
- 2) 第十六改正日本薬局方解説書 2011，廣川書店

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

X III. 備考

その他の関連資料

該当資料なし